

平成 22 年 5 月 28 日現在

研究種目：基盤研究 (C)
研究期間：2007 ～ 2010
課題番号：19500584
研究課題名 (和文) 不妊治療中の夫婦が健康な子どもを得るためのグループ健康教育プログラムの開発
研究課題名 (英文) Development of group health education programs for fertility treatment couple to healthy child
研究代表者 上澤 悦子 (KAMISAWA ETSUKO)
北里大学・看護学部・准教授
研究者番号：10317968

研究代表者の専門分野:母性看護学・助産学

科研費の分科・細目:1403

キーワード:不妊 生活習慣 生殖性 RECEDE-PROCEED Model

1. 研究計画の概要

本研究は、ヘルスプロモーションモデルである RECEDE-PROCEED Model による不妊治療中の女性のための生殖性 (Generativity) に焦点を当てたグループ健康教育である新しい次世代養育プログラムを開発することにある。Generativity とは、成人期の発達課題である「健康な子どもの出産」を含む次世代養育への関わりである。当初の研究成果の一つである臨床データは、患者数の減少、治療方針の変更から採取不能であった。また、男性への意識調査は、分析可能なデータ数までの同意が得られなかったため、女性に焦点をあてた分析とした。その結果、次代養育プログラム介入による対象者の意識変化を RCT 研究デザインにより検証し、新しい次世代養育プログラムを開発した。

2. 研究の進捗状況

(1) 事前アセスメント段階では、不妊女性 400 名 (有効回収数 313) および経産婦 300 名 (有効回答数 256) を対象とした次世代養育意識調査を行った。不妊治療中女性群の平均年齢:35.99 歳 (SD4.6)、平均不妊月数は 42.86 月 (SD33.1) であり、経産婦群の妊娠までの平均月数は 11.96 月 (SD14.8) であっ

た。次世代養育意識に関連する因子抽出した結果、19 因子が抽出され、不妊女性群は経産婦群に比較し有意に、Generativity 意識は高値を示し、日常生活習慣も良好な結果であった ($p < 0.01$)。「女性の生き方に関する考え」「栄養と食品の選択」「不妊治療の意義」「子育ての社会的責任」「社会的責任を果たすこと」「性の教育」の 6 因子が、Generativity と有意な相関を認めたため ($R^2 = 0.33$, $p < 0.01$)、それら因子を含む仮のプログラムを作成し介入研究を実施し、介入成果を不妊女性の Generativity、QOL のさらなる向上、健康な身体、健康な子どもの出産につなげることとした。

(2) 2 市の 74 名の不妊治療中女性から参加同意が得られ、参加型と情報提供型での次世代養育健康教育プログラムを実施した。さらに A 病院で不妊治療中の 22 名の不妊女性も参加に同意し、22 名の不妊女性は無作為に 2 グループに分け、同様な 2 方法のプログラムを実施した。

(3) 健康教育プログラム前後の各因子間の平均得点を二元配置分散で分析し、各群間における介入有用性を検討した結果、不妊女性

の Generativity は、2 市の前後比較研究と A 病院の無作為割付けのいずれの介入研究においても、参加型健康教育プログラムで有意に上昇し ($p < 0.01$)、これらの結果から、新次世代養育プログラムは 11 因子で構成される参加型健康教育が効果的であると判断できた。健康な身体の客観的指標として体組成分析、動脈硬化度、妊娠・出産率は、データ数の不足もあり、教育効果を示す有意な結果を得ることは出来なかった。

(4) 卵巣機能維持のための代替療法や生活習慣の獲得について、一般不妊治療主体で、生薬、漢方、鍼・灸が不妊治療に導入しているモンゴル国不妊女性 200 名の日常生活調査結果を含めて、プログラム完成を目指す予定である。

3. 現在までの達成度：②

A 病院の不妊治療者が減少し、介入研究参加者数は予定数に達しなかったため、当初予定していた血液検査データの分析は困難であった。そのため、主に調査票によるプログラム介入効果の検証を行った。その結果、「不妊夫婦のための次世代養育プログラム」の構成因子を明らかにでき、RCTによりその効果を検証できた。22 年度にはプログラムを DVD 化し、広く普及を目指す予定である。

4. 今後の研究の推進方策

22 年度には開発したプログラムを DVD 化し、普及を目指す予定である。

5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕(計 2 件)

上澤悦子 中山美由紀 川内博人(他 6 名): 不妊治療を受けている夫婦に対するグループ・ソリューション・フォーカスト・アプローチによる心理教育的介入研究の検討, 日本不妊カウンセリング学会誌, vol, No2, 7-14, 2007. (査読あり)

上澤悦子 川口毅: 子どもを望んでいる女性の生殖性(Generativity)意識の影響因子, 日本生殖看護学会誌, Vol7, No1, 12-19, 2010. (査読

あり)

〔学会発表〕(計 5 件)

上澤悦子: 不妊治療を受けている女性と夫婦を対象としたソリューション・フォーカスト・アプローチによるグループ心理教育的プログラムの効果の検討, 第 6 回日本カウンセリング学会学術集会, 2007.6.18, 東京.

Kamisawa Estuko: The efficacy of a psycho-educational group intervention for Japanese infertile couples with one or more failures of Assisted Reproductive Technology, 世界心身学会アジア部会, 2007.11, メルボル.

Kamisawa estuko: Social Contribution of the Midwife in Japanese medical services, The 13th Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine, 113, Asian College of psychosomatic medicine, 2008.8.31, Seoul Korea.

上澤悦子: 生殖性(generativity)の意識に影響を与えている関連因子の分析, 第 7 回日本生殖看護学会学術集会, 2009.9.13, 津.

上澤悦子: 不妊女性の日常生活意識と生活の質に関する要因分析, 第 8 回日本不妊カウンセリング学会学術集会, 2009.6.5. 東京.

〔図書〕(計 3 件)

著者分担執筆

編 高橋真理 村本淳子: 不妊とヘルスケア。ウイメンズヘルスナーシング, 女性のライフサイクルとナーシング, 女性の生涯発達と看護, 202-207, ヌーヴェルヒロカワ, 2005,

編 黒田祐子: セクシュアリティに健康問題をもつ人のアセスメントと看護, 成人看護学, 1-19, 医学書院, 2009,

編 佐藤孝道: 不妊に悩む女性の看護-不妊症看護 外来での看護, メディカ出版, 2010.

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)